

ユキヤナギアブラムシ (別名 ミカンミドリアブラムシ)

つやのない緑色のアブラムシ。最大長2.5mm。触角や脚はところどころ黒い。翅（はね）のある成虫は頭部や胸部が黒い。春から秋までみられ、ユキヤナギ、ボケ、ナシ、リンゴ、ウメ、スモモ、サンザシなどの若枝や若葉に群生する。

果樹では主要な害虫とされる。ユキヤナギでは寄生されても若い枝葉が縮れる程度で実害はない。



1. 幼虫と成虫，体長1～2mm。2000/6/13.

北見市の庭のユキヤナギ。

【学名】 *Aphis citricola* 【英名】 citrus green aphid

【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) , アブラムシ科 (Aphididae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州：世界各地に広く分布。

【特徴】

リンゴには数種のアブラムシが寄生する。ユキヤナギアブラムシは体がつやのない緑色で白い粉や綿状物質に被われないこと、リンゴでは寄生葉が巻いたり縮れないことで識別できるようである。

ナシではナシノアブラムシと大きさや色が似ている。どちらも若い枝や葉に寄生するが、葉での寄生部位はユキヤナギアブラムシは裏側、ナシノアブラムシは表側である。

【生態】

秋～春の宿主：ユキヤナギ，コデマリ，カンキツ。

夏の宿主：バラ科（ボケ，ナシ，モモ，スモモ，ウメ，サクラ，リンゴ，サンザシ），セリ，ミツバ，イタドリなど。

ユキヤナギやコデマリなどの幹で卵で越冬する。卵は春に孵化し、樹液を吸って加害を始める。晩春には有翅虫が現れ、リンゴやウメなど夏の宿主に飛来し、そこで秋まで世代を繰り返す。晩秋にユキヤナギやコデマリに戻ってくる。

天敵としてテントウムシ類，ヒラタアブ類がよくみられる。

【被害と防除】

ユキヤナギやコデマリでは寄生により新芽や枝先が縮れる程度で防除は普通必要とされない。

バラ科果樹ではリンゴやニホンナシでは主要害虫とされ、果樹園では防除が行われている。

【文献】

1977. 奥野孝夫, 田中寛, 木村裕. 原色樹木病害虫図鑑. 保育社, 大阪. (形態, 生態, 防除の解説)
1983. 森津孫四郎. 日本原色アブラムシ図鑑. 全国農村教育協会, 東京. (形態, 生態の解説)
1986. 山口昭, 大竹昭郎, 編集. 果樹の病害虫, 診断と防除. 全国農村教育協会, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除)
1996. 湯川淳一, 榎田長, 編集. 日本原色虫えい図鑑. 全国農村教育協会, 東京. (生態の解説)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ユキヤナギアブラムシ abura/yukiyana/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/2/8.
musi.JPG

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2000.